

引地川総合治水対策特定河川事業(遊水地)の 効果について

引地川流域は、人口の急増に伴い開発が進んだため、流域の保水・遊水機能が減少し、水害が多く発生するようになりました。既成市街地の下流部は、新たな断面の確保が困難であるため、河道改修とあわせて、下流部と中流部の2つの遊水地に対応する計画です。



◎整備状況

中流部の遊水地は昨年度末に具体的な計画地(下土棚遊水地)が決まり、本年度から調査及び施設の計画に着手しました。

今後、詳細な整備スケジュールと平時の上部利用を検討し、治水と良好な河川環境の両立を目指します。

計画地は、支川(蓼川)合流直下。



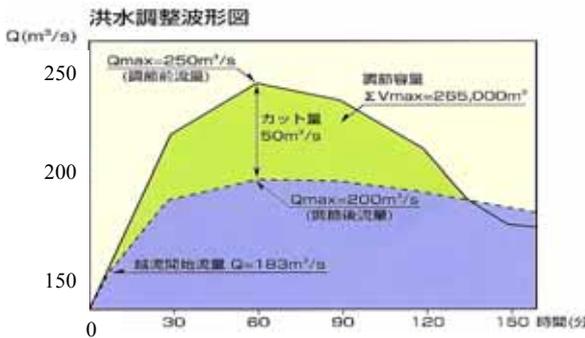
下流部の大庭遊水地(左)は平成5年度に完成し、治水と河川環境両面の整備がなされ、下土棚遊水地の整備例となります。

◎治水

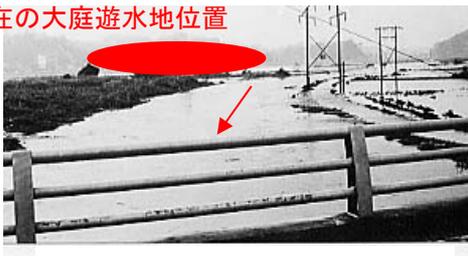
大庭遊水地は、最大貯留量約26.5万m³、毎秒50m³のカット量を有し、下流の市街地を守ります。

◎環境等

大庭遊水地では、自然保全と、多目的スポーツのゾーニングを行い、平時は憩いの場となっています。



現在の大庭遊水地位置



昭和41年6月28日の出水
(大庭遊水地直下流の高名橋)



創設した湿地

サッカー場として利用

